

公益財団法人PwC財団 代表理事 日向 昭人殿
 助成事業2025年度春期環境(食料システム)
 助成金交付申請書

2025年 月 日

申請団体情報

団体の名称	(フリガナ)	
	(英語)	
所在地	(フリガナ)	
	〒	
電話番号		
団体 ホームペー ジ		
代表者	役職	氏名
		(フリガナ)
連絡責任者	役職	氏名
		(フリガナ)
	電話番号	
	E-mail	
団体の目的		

<p>団体の 活動内容</p>	<p>※団体全体の事業概要および活動により実現したい世界について記載ください</p>		
<p>設立年度</p>		<p>従業員数</p>	
<p>直近の活動実績</p>			
<p>助成・受賞の実績</p>			
<p>※助成・受賞の実績がある場合は記載ください</p>			
<p>特許登録番号</p>			
<p>※出願中の場合は出願番号を記載してください</p>			

記

1. 助成申請事業が該当するテーマ

※募集要項に記載の対象テーマのうち、助成申請事業が該当する技術や取り組みを選択ください

テーマ1: 食品ロス削減・アップサイクル

ICT、AI、バイオテクノロジーなどの技術を活用することで、無駄となる農林水産物および食品を削減したり、生産段階での残渣や廃棄食品などの食料システム上で生じるロスをアップサイクルして有効利用したりして、農林水産業分野の生産性向上や環境負荷を低減した持続可能な社会形成を目指す活動。想定している技術や取り組みは以下のとおりです。少なくとも1つの技術・取り組みは実証済みである必要があります(一部、今後実証を目指すものを含めることができます)。

1. ロスの削減・発生抑止: 生産から消費までの各プロセスで生じている農林水産物や食品のロスを抜本的に削減する、またはロスの発生を抑止する技術や活動
2. アップサイクル: 生産から消費までの各プロセスで生じている農林水産物や食品のロスをアップサイクルし、廃棄処理にかかるGHG排出量の削減と、非化石の資源・資材の再利用を両立する技術や活動
3. 持続可能な農林水産物・食品の市場評価形成: ロス削減や循環型資材の利用などにより、環境や社会へ配慮して生産された農林水産物および食品や、そのような活動に取り組む地域の生産物が市場で適正評価されるための技術や活動

テーマ2: タンパク質危機

欧州を中心とする気候変動対策の中で、畜産業への忌避感が高まり、海洋資源の利用制限が進んでいる。それに対して、バイオテクノロジーなどを活用し、地球環境や生態系に配慮しながら、誰もが健康的な生活を営むために十分な量のタンパク質源を供給することを目指す活動。想定している技術や取り組みは以下のとおりです。少なくとも1つの技術・取り組みは実証済みである必要があります(一部、今後実証を目指すものを含めることができます)。

1. 持続可能性と生産性を両立した養殖または畜産モデルの構築: 生産段階での利用資源量を極小化し、GHG排出量を削減するなど地球環境や生態系に配慮しつつ、効率的かつ効果的にタンパク質源を供給する技術や活動
2. 地域特有資源の有効利用: 地域特有の農林水産資源や未利用の農林水産資源を食用に活用することで、特徴的な地域資源として付加価値化する技術や活動
3. 科学的プロセスによるタンパク質源の創出: 既存の食料生産と競合しない代替的なタンパク質源の生産や、農林水産物の機能性向上(タンパク質含有量の向上など)に資する技術や活動

テーマ3: 消滅危機にある食材の維持と食文化の継承

バイオテクノロジーやデジタル技術を活用し、消滅危機に瀕している食材を持続可能なものとするための環境を構築し、豊かな健康的な食文化を未来の世代へ継承することを目指す活動。想定している取り組みは以下のとおりです。なお、該当するテクノロジーは、実証段階もしくは実証済みである必要があります。

1. 消滅危機に瀕した食材の基盤となる海や沿岸、土壌や森林を効率的に保護・管理し、生態系のバランスを維持しながら自然環境を保全する技術や活動
2. 従来とは異なる手法を用いて、消滅危機に瀕した食材の育成・生産・収穫を行う技術や活動

2. 助成申請事業名

3. 助成申請事業で取り組む社会課題のテーマとその理由
3-1. 募集要項を踏まえ、どのような社会課題の解決に取り組んでいるかとその理由を記載ください
3-2. 申請事業に取り組むに至った背景や、結びつく原体験がある場合は記載ください
4. 助成申請事業の目的
※団体の事業全体ではなく、当該事業の目的について記載ください

5. 助成申請事業の全体計画
5-1. 当該事業において、活用される技術・アプローチが分かるように記載ください
5-2. 当該事業において、どのようにテクノロジーを用いて課題を解決するのか、実現内容と方法、その独自性や先進性などが分かるように記載ください
5-3. 当該事業の実施体制が分かるように記載ください。
5-4. 当該事業のスケジュールが分かるように記載ください
5-5. 当該事業に独創性がある場合は分かるように記載ください
5-6. 当該事業のビジネスモデルが分かるように記載ください
6. 助成申請事業の短期的インパクト
※当該事業によって1年後に見込まれる成果を記載ください
7. 助成申請事業推進における課題

7-1. 当該事業推進において課題がある場合は記載ください

7-2. 助成金以外でPwC財団に期待する支援がある場合は記載ください

8. 事業ステージ

※当該事業に該当する事業ステージをTRL (Technology Readiness Level)に基づいて記載ください

※TRLが実態に即さない場合は、その点も含めて説明ください

※事業ステージはTRL4以上が望ましい

TRL

1. 原理的な可能性が提示されている
2. 技術的な概念モデルが提案されている
3. 技術的な概念モデルが定量的に検討されている
4. 技術要素としての実証モデルが実験室レベルで試験されている
5. 技術要素としての実証モデルが、実際の使用環境に近い条件のもとで試験されている
6. システムとして実証モデルが試験されている
7. システムとして実証モデルが、実際の使用環境に近い条件のもとで試験されている
8. 実際のビジネスモデルが製作され、試験が終了している
9. 実際のビジネスモデルが運用され、実際のビジネスによって性能が確認されている

9. 事業のニーズと優位性

※事業モデルについて、対象となる自治体や企業のニーズ、当該ニーズへのアプローチ方法について、独自性や先進性を踏まえて記載ください

10. 社会的普及の実現性
※当該事業を社会実装する上でのハードルと、当該ハードルを乗り越える方法／計画について記載ください
11. 実現したい世界
※当該事業期間内だけでなく、3年後、5年後をイメージして、どのような世界を実現していくのか分かるように記載ください。この世界を実現するために必要な社会制度(医療福祉制度、教育制度など)の変革についても記載ください
12. 長期的なインパクト
※今後3～5年以内に見込まれる成果、インパクトを社会性・事業性双方の観点から記載ください(定量的な成果に限定しません)
13. 他の出資・助成の有無
<input type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無 ※有の場合は、出資元・他助成名称を記載ください
14. PwC Japanグループと貴団体の関係性
※PwC Japanグループと貴団体の間にビジネスや広報活動における協業や連携がある場合、その詳細を記載ください(現在進行中のものに限らず、近日中に発生する可能性があるものは全て記載ください。過去に発生したものも、可能な範囲で記載ください。)
15. ご応募の経緯
※PwC財団助成事業2025年度春期環境(食料システム)を知ったきっかけを教えてください <input type="checkbox"/> 助成財団センターウェブサイト <input type="checkbox"/> その他のウェブサイト() ※差し支えなければウェブサイト名を記載ください <input type="checkbox"/> メーリングリスト

※差し支えなければメーリングリスト名を記載ください

☐ PwC財団主催のメディア向けイベント(メディア懇親会、インパクトレポート発表会等)

☐ 新聞等のメディア

☐ SNS

☐ 知人の紹介(

)

※差し支えなければご紹介者様の所属と氏名を記載ください

☐ その他(

)

メール添付資料 チェックシート	1. 定款	
	2. 役員名簿(上位3名に限る)	
	3. 全部事項証明書(発行日から3カ月以内の最新のもの)	
	4. 前年度の収支決算書(株式会社の場合は損益計算書や決算報告書など)	
	5. 本年度の収支予算書(株式会社の場合は予算案など)	
	6. 貸借対照表	
	7. 事業案内書(パンフレットなど)	
	8. 助成事業の予算書	
	9. 株主名簿(株式会社の場合。保有割合が10%以上の株主に限る)	
	10. 出資者や経営の意思決定に関わる方／団体が存在する場合はそれらが確認できる資料(株式会社以外の場合)	